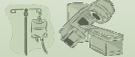


リンパ腫グループ：古典的ホジキンリンパ腫 治療開発マップ

2025.01

対象	標準治療	JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬/適応外薬
限局期 臨床病期 I 縦隔バルキー病変なし 臨床病期 II	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;"> ABVD(4コース) +領域照射(30 Gy)  </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;"> 予後不良因子がない場合 ABVD(2コース) +領域照射(20 Gy) </div> </div>		<div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">HD10 (LYSA/EORTC/FIL) NCT00265018</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">RAPID (NCRI) NCT00943423</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">HD16 (GHSG) NCT00736320</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">RADAR (UCL) NCT04685616</div>	
進行期 縦隔バルキー病変あり 臨床病期II 臨床病期 III 臨床病期 IV	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;"> ABVD (6, 8コース) 部分奏効例では、 残存部位に照射(30Gy)を追加 </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;"> BV-AVD (6コース) 60歳以下 ABVD 2コース後 中間 PET陰性 →ABVD療法4コース 中間 PET陽性 →増量BEACOPP6コース </div> </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; background-color: #fff9c4;"> JCOG1305 ABVDによる寛解導入 中間 PET陰性群→ABVD療法継続 中間 PET陽性群→増量BEACOPP 2015.11~2020.2→2030.2  </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">BV+AVD vs. ニボルマブ+AVD (SWOG) NCT03907488</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">BEACOPP vs. BrECADD (GHSG) NCT02661503</div>	
再発	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;"> 65歳以下 救援化学療法および 自家末梢血幹細胞移植 併用大量化学療法 </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%;"> 66歳以上 救援化学療法  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%; text-align: center;">BV</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 45%; text-align: center;">ニボルマブ、 ペムプロリズマブ</div> </div>			

ABVD (ドキシソルピシン、ブレオマイシン、ビンブラスチン、ダカルバジン) AVD (ドキシソルピシン、ビンブラスチン、ダカルバジン)
 BEACOPP (ブレオマイシン、エトポシド、ドキシソルピシン、シクロホスファミド、ピンクリスチン、プロカルバジン、プレドニソロン)
 BV (ブレンツキシマブ・ベドチン)

領域照射療法：治療前に病変があった領域のみに照射する方法

中間 PET：治療中間でのPETによる画像診断

救援化学療法：初回治療後の再発または治療抵抗性患者に対して行う化学療法

予後不良因子：縦隔バルキー病変の存在、節外病変の存在、血沈亢進（B症状なしの場合 ≥50mm/時間、B症状ありの場合 ≥30mm/時間）、3カ所以上の病変の存在

リンパ腫グループ：濾胞性リンパ腫 (Grade1-3A)

治療開発マップ

2025.01.

対象	標準治療	JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬 / 適応外薬
限局期	<p>領域照射 (24-30 Gy) (照射適応外では進行期に準じた治療方針)</p> 			
進行期	<p>低腫瘍量</p> <p>リツキシマブ</p>  <p>無治療経過観察</p>	<p>JCOG0203 R-CHOP-21 vs R-CHOP-14 第II/III相試験 2002.9 → 2007.2</p> <p>JCOG1411 無治療経過観察 vs. リツキシマブ早期介入 第III相試験 2016.12~2023.3 → 2028.3</p> 		<p>リツキシマブ・ヒアルロニダーゼ</p>
	<p>高腫瘍量</p> <p>オビヌツズマブ併用化学療法¹⁾ リツキシマブ併用化学療法¹⁾ (奏効例にオビヌツズマブ/リツキシマブ維持療法)</p> 		<p>JCOG2008 オビヌツズマブ+ベンダムスチン療法後、完全代謝奏効例 オビヌツズマブ維持療法 vs. 無治療経過観察 第III相試験 2021.10~</p>	
再発	<p>リツキシマブ併用化学療法²⁾ オビヌツズマブ併用化学療法¹⁾</p> <p>リツキシマブ</p> <p>二重特異抗体 モスネツズマブ</p> <p>CAR-T細胞療法 チサゲンレクルユーセル リソカブタゲン マラルユーセル</p> <p>無治療経過観察</p>	<p>EZH2変異陽性： タゼメトスタット</p> <p>イブリツモマブ・チウキセタン</p> <p>造血幹細胞移植</p>	<p>モスネツズマブ+レナリドミド vs. リツキシマブ+レナリドミド療法 第III相試験 (中外製薬)</p> <p>タファシタマブ+R2 vs. R2 第III相試験 (インサイト)</p> <p>エブリクタマブ+R2 vs. R2 第III相試験 (ジェンマブ)</p> <p>アキシカブタゲンシロルユーセル vs. 標準療法 第III相試験 (ギリアド)</p>	<p>リツキシマブ・ヒアルロニダーゼ アキシカブタゲンシロルユーセル エブリクタマブ タゼメトスタット (EZH2変異陰性)</p>

領域照射：治療前に病変があった領域のみに照射する方法

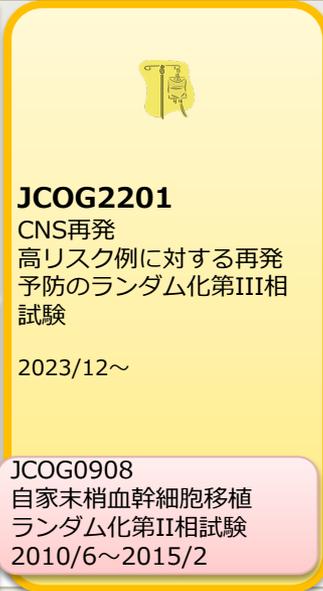
R-CHOP (リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキシルピシン、ビンクリスチン、プレドニゾン)

1) 化学療法：CHOP, CVP (シクロホスファミド、ビンクリスチン、プレドニゾン) またはベンダムスチン

2) 化学療法：CHOP, CVP, ベンダムスチンまたはレナリドミド

※ phase I/II試験については記載していません

リンパ腫グループ：びまん性大細胞型B細胞リンパ腫 治療開発マップ（DLBCL） 若年者 2025.01.

対象 病期 国際予後指標		標準治療	JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬/ 適応外薬		
初発	限局期	リスクなし R-CHOP (4コース)	 <p>JCOG2201 CNS再発 高リスク例に対する再発 予防のランダム化第III相 試験 2023/12~</p> <p>JCOG0908 自家末梢血幹細胞移植 ランダム化第II相試験 2010/6~2015/2</p>	<p>Non GCB DLBCLに対する R-CHOP +/- アカラブルチニブの ランダム化第III相試験 (アストラゼネカ) (75歳以下)</p> <p>R-CHOP +/- エブコリタマ ブのランダム 化第III相試験 (ジェンマ ブ・アッ ヴィ)</p> <p>Pola-R-CHP +/- グロフィ タマブのラン ダム化第III 相試験 (中 外・ロシュ)</p> <p>高リスク大細胞型B 細胞リンパ腫 に対するGolcadomide +/- R- CHOP のランダム化第III相試験 (プリストル・マイヤーズ スクイ ブ)</p>	<p>アントラサイクリンが不 適格患者に対するエブコ リタマブ単剤またはレナ リドミド併用療法の第II 相試験 (ジェンマブ)</p> <p>R-CHOP +/- タファシタマブ +レナリドミドの ランダム化第III相試験 (インサイト・ バイオサイエンシズ・ ジャパン)</p>		
	進行期	全リスク					R-CHOP (3コース) +領域照射
		低中~高 リスク					R-CHOP (6~8コース) (JCOG0601) ポラツズマブベドチン +R-CHP (6コース)
		低リスク					R-CHOP (6~8コース) (JCOG0601) 
		低中リスク					
		中高リスク					ポラツズマブベドチン +R-CHP (6コース) (80歳以下)
	高リスク						
再発 全病期/全リスク		<p>救援化学療法および ASCT併用大量化学療法</p> <p>BR±ポラツズマブベドチン</p> <p>二重特異抗体 エブコリタマブ</p> <p>CAR-T細胞療法 チサゲンレクルユーセル* アキシカプタゲンシロルユーセル*, ** リソカプタゲンマラルユーセル*, **</p>		<p>救援化学療法とエブコリタマブの 第III相試験 (ジェンマブ)</p> <p>ツジジノスタット・リツキシマブの 第II相試験 (Meijiファルマ)</p> <p>ロンカスツキシマブ・テシリンの 第II総試験 (田辺三菱)</p> <p>ロンカスツキシマブ・テシリン +リツキシマブと免疫化学療法の 第III相試験 (田辺三菱)</p> <p>エブコリタマブと抗腫瘍薬の併用 の第1b/II 相試験 (アッヴィ) :</p> <p>rapcabtagene autoleucelの 第1/II相試験 (ノバルティス)</p>	<p>モスネツズマブ+ポラツズマブ・ベトチ ンと化学療法の第III相試験 (中外)</p> <p>オドロネクスタマブの第II相試験 (REGENERON)</p> <p>タファシタマブ + レナリドミドの第II 総試験 (インサイト・バイオサイエン シズ・ジャパン)</p> <p>PDR001との併用でNIR178を検討する 第II相試験 (ノバルティス) :</p> <p>オビヌツズマブの単回投与後にPF- 07901801をglofitamabと併用する第 1b/2相試験 (ファイザー)</p>	<p>セリネキサ</p> <p>オドロネクスタマブ</p> <p>グロフィタマブ</p>	

R-CHOP (リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキシソルピシン、ピンクリスチン、プレドニゾロン)、Pola-R-CHP (ポラツズマブベドチン、リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキシソルピシン、プレドニゾロン) 領域照射：治療前に病変があった領域のみに照射する方法

*：初発では2回以上、再発では再発後に化学療法を1回以上施行し、完全奏効が得られなかった又は完全奏効が得られたが再発した場合で自家造血幹細胞移植（ASCT）の適応とならない又はASCT後に再発した患者に限る。 ** 初回治療不応または初回治療から12ヶ月以内に再発した場合。

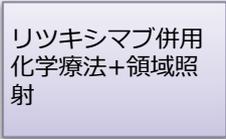
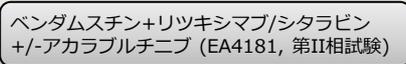
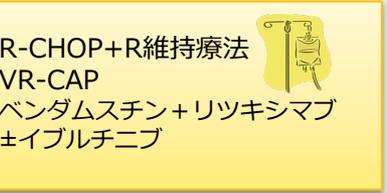
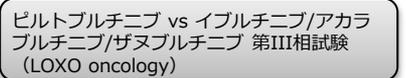
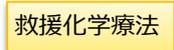
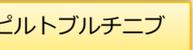
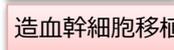
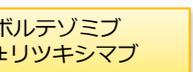
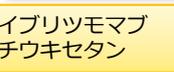
リンパ腫グループ：びまん性大細胞型B細胞リンパ腫 治療開発マップ（DLBCL） 高齢者 2025.01.

対象 病期 国際予後指標		標準治療	JCOG試験	他組織の試験		主な未承認薬/ 適応外薬			
初発	限局期	全リスク	R-CHOP (3コース) + 領域照射	JCOG2201 CNS再発高リスク例 再発予防第III相試験 	Non GCB DLBCLに対する R-CHOP +/- アカブルチニブの ランダム化第III相試験 (アストラゼネカ) (75歳以下)	アントラサイクリンが不 適格患者に対するエプコ リタマブ単剤またはレナ リドミド併用療法の第II 相試験 (ジェンマブ)			
		低中～高 リスク	R-CHOP (6～8コース) (JCOG0601)				ポラツズマブベドチン +R-CHP (6コース) (80歳以下)	R-CHOP +/- エプコリタマブのランダム 化第III相試験 (ジェンマ ブ・アッ ヴィ)	Pola-R-CHP +/- グロフィ タマブのラン ダム化第III 相試験 (中 外・ロシュ)
	進行期	低リスク	R-CHOP (6～8コース) (JCOG0601)				ポラツズマブ ベドチン +R-CHP療法 髄腔内投与	高リスク大細胞型B 細胞リンパ腫 に対するGolcadomide +/- R- CHOP のランダム化第III相試験 (プリストル・マイヤーズ スクイ プ)	80歳以上未治療DLBCLに 対するポラツズマブ・ベド チン+R-miniCHP療法の第 II相試験(NHO)
		低中リスク	ポラツズマブベドチン +R-CHP (6コース) (80歳以下)				vs. ポラツズマブ ベドチン +R-CHP療法 髄腔内投与 R-大量メトトレキサート療法		
	中高リスク	ポラツズマブベドチン +R-CHP (6コース) (80歳以下)							
	高リスク								
再発	全病期/全リスク	救援化学療法および ASCT併用大量化学療法		救援化学療法とエプコリタマブの 第III相試験 (ジェンマブ)	モスネツズマブ+ポラツズマブ・ベトチ ンと化学療法の第III相試験 (中外)	セリネキサ			
		BR±ポラツズマブベドチン		ツジジノスタット・リツキシマブの 第II相試験 (Meijiファルマ)	オドロネクスタマブの第II相試験 (REGENERON)	オドロネクスタマブ			
		二重特異抗体 エプコリタマブ		ロンカスツキシマブ・テシリンの 第II総試験 (田辺三菱)	タファシタマブ + レナリドミドの第II 総試験 (インサイト・バイオサイエン シズ・ジャパン)	グロフィタマブ			
		CAR-T細胞療法 チサゲンレクルユーセル* アキシカブタゲンシロルユーセル*, ** リソカブタゲンマラルユーセル*, **		ロンカツキシマブ・テシリ ン+リツキシマブと免疫化学療法の 第III相試験 (田辺三菱)	PDR001との併用でNIR178を検討する 第II相試験 (ノバルティス) :	オビヌツズマブの単回投与後にPF- 07901801をglofitamabと併用する第 1b/2相試験 (ファイザー)			
			エプコリタマブと抗腫瘍薬の併用 の第1b/II 相試験 (アッヴィ) :						
			rapcabtagene autoleucelの 第I/II相試験 (ノバルティス)						

R-CHOP (リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキソルピシン、ビンクリスチン、プレドニゾン)、
 Pola-R-CHP (ポラツズマブベドチン、リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキソルピシン、プレドニゾン) 領域照射：治療前に病変があった領域のみに照射する方法
 *：初発では2回以上、再発では再発後に化学療法を1回以上施行し、完全奏効が得られなかった又は完全奏効が得られたが再発した場合で自家造血幹細胞移植 (ASCT) の適応とならない又はASCT
 後に再発した患者に限る。 ** 初回治療不応または初回治療から12ヶ月以内に再発した場合。

リンパ腫グループ：マントル細胞リンパ腫

治療開発マップ 2025.01.

対象	標準治療	JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬 / 適応外薬
初発 / 未治療	限局期 臨床病期 I non-bulky II  			
	若年進行期 (65歳以下) 臨床病期 II 臨床病期 III 臨床病期 IV  <p>JCOG0406 (R-HiCHOP/CHSER/LEED) → R維持療法</p>		  	R-CHOP+イブルチニブ/R-DHAP→自家移植→イブルチニブ維持療法
	高齢進行期 (66歳以上) 臨床病期 II 臨床病期 III 臨床病期 IV  <p>R-CHOP+R維持療法 VR-CAP ベンダムスチン+リツキシマブ ±イブルチニブ</p>		    	ベンダムスチン+リツキシマブ+アカラブルチニブ レナリドミド アカラブルチニブ ザヌブルチニブ リソカブタゲン マラ ルユーセル
再発	     			

自家移植：自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法
 領域照射：治療前に病変があった領域のみに照射する方法
 R-CHOP (リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキシソルピシン、ビンクリスチン、プレドニゾン)
 CHASER (シクロホスファミド、シタラピン、エトポシド、デキサメタゾン、リツキシマブ)
 LEED (メルファラン、シクロホスファミド、メスナ、エトポシド、デキサメタゾン)
 VR-CAP (ボルテゾミブ、リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキシソルピシン、プレドニゾン)
 R-DHAP (リツキシマブ、デキサメタゾン、シタラピン、シスプラチン)

リンパ腫グループ：成人T細胞白血病・リンパ腫（ATL） 治療開発マップ 2025.01.

対象		標準治療		JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬/適応外薬	分類
くすぶり型	症候なし	無治療経過観察					インビシントATL
	症候あり	無治療経過観察	皮膚病変を有する場合 局所治療あるいは ベキサロテン	JCOG1111C インターフェロン/ジドブジン vs. 無治療経過観察 第III相試験 2013.9~2018.3→2025.3			
慢性型 (予後不良因子なし)							
急性型・リンパ腫型・慢性型 (予後不良因子あり ¹⁾)	初発	多剤併用化学療法 ²⁾ ±モガムリズマブ ³⁾ ±ブレントキシマブベドチン ⁴⁾ ±同種造血幹細胞移植 ⁵⁾	モガムリズマブ併用CHOP-14療法 ⁶⁾ (66歳以上、移植を希望しない56歳以上)	JCOG0907 同種移植 単アーム 第III相試験 2010.9~2020.6→2023.6	移植後シクロフォスファミドを用いた非血縁者間末梢血幹細胞移植の安全性・有効性を検討する第II相試験 (国立がん研究センター中央病院他)		アダレツシブATL
急性型・リンパ腫型・慢性型 (予後不良因子あり ¹⁾)	再発・治療抵抗性	救援化学療法±同種造血幹細胞移植 ⁵⁾	モガムリズマブ ³⁾		ニボルマブ 第II相試験 (鹿児島大学他)		
		ブレントキシマブベドチン ⁴⁾			Taxを標的とする樹状細胞ワクチン療法 第II相試験 (九州がんセンター他) ⁹⁾		
		レナリドミド			ゴルカドミド第I/II相試験 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ)		
		ツジジノスタット			ロベグインターフェロン アルファ-2b第II相試験 (ファーマエッセンシアジャパン)		
		バレメトスタット			アミノレプリン酸塩I/II相試験 (JIMRO) ⁸⁾		
		ベキサロテン ⁷⁾					

- 予後不良因子を有する慢性型；慢性型ATLのうち、予後不良因子（BUN>基準値上限、LDH>基準値上限、アルブミン<基準値下限）いずれかを有するもの
- VCAP-AMP-VECPが推奨される：VCAP（ピンクリスチン、シクロホスファミド、ドキシソルピシ、ブレドニゾロン）、AMP（ドキシソルピシ、ラニムスチン、ブレドニゾロン）、VECP（ビンデシン、エトポシド、カルボプラチン、ブレドニゾロン）
- ATL細胞がCCR4陽性の場合 4) ATL細胞がCD30陽性の場合（多剤併用化学療法はCHP（シクロホスファミド、ドキシソルピシ、ブレドニゾロン）に限定）
- 70歳以下の場合。同種造血幹細胞移植の適応となる患者への移植前モガムリズマブ使用は、移植片対宿主病による死亡リスクを高める可能性が報告されており、risk/benefitを慎重に判断する
- CHOP（シクロホスファミド、ドキシソルピシ、ピンクリスチン、ブレドニゾロン） 7) 皮膚病変を有する場合 8) 末梢血病変を有する場合
- 前治療でPR以上の効果が得られた患者への維持療法

リンパ腫グループ：末梢性T細胞リンパ腫

治療開発マップ 2025.01.

対象		標準治療	JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬 /適応外薬
初発	CD30 陰性	CHOP-21 	JCOG2210 未治療末梢性T細胞リンパ腫 ランダム化第III相試験 経過観察 vs. 自家末梢血幹細胞移植併用大量 化学療法 2024.6～	未治療末梢性T細胞リンパ腫に 対するHDT with ASCTのラン ダム化第III相試験 (Lysa)	
	CD30 陽性	BV + CHP 			
再発	65歳以下 救援化学療法および 自家末梢血幹細胞移 植併用大量化学療法	66歳以上 救援化学療法		ニボルマブ 第II相試験 (九州大学他)	ベリノスタット クリゾチニブ ⁴⁾
	プラトレキサート	ロミデプシン		ゴルカドミド 第I/II相試験 (BMS)	
	フォロデシン	BV ²⁾			
	モガムリズマブ ³⁾	アレクチニブ ⁴⁾			
	デニロイキン・ジ フチトクス	ツシジノスタット			
		ダリナパルシン			
		バレメトスタット			

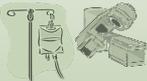
※ 第I相試験については記載していません

- 1) PTCLを含むaggressive lymphomaを対象
- 2) CD30陽性の場合
- 3) CCR4陽性の場合
- 4) ALK陽性未分化大細胞リンパ腫の場合
- 5) AITL, 濾胞性ヘルパーT細胞リンパ腫の場合

BV (ブレンツキシマブ・ベドチン)
 CHP (シクロホスファミド、ドキシソルビシン、プレドニゾロン)
 CHOP (シクロホスファミド、ドキシソルビシン、ビンクリスチン、プレドニゾロン)

リンパ腫グループ：節外性NK/T細胞リンパ腫、鼻型

治療開発マップ 2025.01.

対象	標準治療	JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬 / 適応外薬	
臨床病期 IE	<p>鼻腔(周辺)限局:</p> <p>アントラサイクリンを含まない化学療法と放射線治療の同時または逐次的併用療法</p>				
臨床病期 IIE	<p>JCOG0211-DI (RT-2/3DeVIC)</p> 				
臨床病期 IIIIE	<p>L-アスパラギナーゼを含む化学療法(SMILEなど)</p>				
臨床病期 IV					
再発		<p>再発難治性末梢性T細胞リンパ腫に対するニボルマブ 医師主導臨床第II相治験 (West-JHOG, CReS九州)</p>	<p>再発/治療抵抗性節外性NK/T細胞リンパ腫-鼻型に対するアテゾリズマブの第II相医師主導治験 (NCCH他)</p>	<p>再発/治療抵抗性節外性NK/T細胞リンパ腫-鼻型に対するアテゾリズマブの第II相医師主導治験 (NCCH他)</p>	<p>オキサリプラチン</p> <p>ペムブロリズマブ</p> <p>ニボルマブ</p> <p>アテゾリズマブ</p>

SMILE (デキサメタゾン、メトトレキサート、イホスファミド、L-アスパラギナーゼ、エトポシド)
 DeVIC (カルボプラチン、エトポシド、イホスファミド、デキサメタゾン)
 領域照射：治療前に病変があった領域のみに照射する方法

リンパ腫グループ：骨髄腫 治療開発マップ

2025.01.

対象	標準治療	JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬 / 適応外薬
くすぶり型骨髄腫	無治療経過観察		D vs observation P3 (ヤンセン) イサツキシマブ+Ld vs Ld P3(サノフィ)	
多発性骨髄腫 (64歳以下)	Bd ± X※→自家末梢血幹細胞移植併用 メルファラン大量療法→イキサゾミブ またはレナリドミド維持療法 ※ レナリドミド (推奨), あるいはシクロホ スファミド, ドキソルピシンのいずれか1剤		D-BLd→ASCT vs D-BLd→Cilta-cel P3 (ヤンセン) 自家移植後、Iberdomide vs L P3 (BMS) 自家移植後、Elra vs L P3 (ファイザー)	カーフィルゾミブ イキサゾミブ サリドマイド ボマリドミド イサツキシマブ ダラツムマブ
多発性骨髄腫 (65歳以上)	D-MPB-D維持 D-Ld I-BLd (Fitが対象)	JCOG1911 ※1 D-MPB療法後 D維持 vs. D-B維持 ランダム化第III相試験 2021.1~ 	BLd→Ld vs BLd→Cilta-cel P3 (ヤンセン) Elra + D-L vs Elra + L vs D-Ld P3 (ファイザー)	カーフィルゾミブ イキサゾミブ サリドマイド ボマリドミド イサツキシマブ
再発・治療抵抗性	Bd ※2 Td ※2 Ld Pd Cd Ld+ (イキサゾミブ or B or C) BPd ダラツムマブ+ (Bd or Cd or Ld or Pd) イサツキシマブ± (Cd or Pd or d) エロツズマブ+ (Ld or Pd) プロテアソーム阻害剤、免疫調節薬、抗CD38抗 体の3クラス既治療例 CAR-T細胞療法 Ide-cel、Cilta-cel 二重特異抗体 Elra		CAR-T細胞療法 ・ OPC-415 P1/2 (大塚) Bispecific antibody (P2/3のみ記載) Elra vs (EPd / BPd / Cd) (ファイザー) Elra vs Elra+D vs DPd (ファイザー) Tal+P vs Tal+Teq vs (EPd / BPd) (ヤンセン) Tec vs (BPd / Cd) (ヤンセン) Tec+D vs (DPd / DBd) (ヤンセン) Tal+DP vs Tal+D vs DPd (ヤンセン) 髄外形質細胞腫 Tec+Tal P2 (ヤンセン) Linvo vs EPd (リジェネロン) Linvo P2 (リジェネロン) Iberdomide+D+d vs D-Bd P3 (BMS) Mezigdomide+Bd vs BPd P3 (BMS) Mezigdomide+Cd vs Cd P3 (BMS)	Teclistamab Talquetamab Selinexor Melflufen Belantamab Mafodotin

B (ボルテゾミブ)
d (デキサメタゾン)
D (ダラツムマブ)
L (レナリドミド)
T (サリドマイド)
MPB (メルファラン+ブレドニゾロン+ボルテゾミブ)

P (ボマリドミド)
C (カーフィルゾミブ)
I (イサツキシマブ)
E (エロツズマブ)

Ide-cel (イデカブタゲン ビクルユーセル)
Cilta-cel (シルタカブタゲン オートルユーセル)
Elra (エルラナタマブ)
CAR (chimeric antigen receptor)
Tec (Teclistamab)
Linvo (Linvoseltamab) Tal (Talquetamab)

※1 JCOG1105 (至適なMPB療法を選択するためのランダム化第II相試験 2016/4~2019/4) を受けて、JCOG1911を計画・実施した。
※2 JCOG0904 (Bd vs Tdのランダム化第II相試験 (2014/10 ~2017/10) が実施された。